

令和6年度 秦野市立広畑小学校いじめ防止基本方針

第1 いじめの防止等のための対策の基本的な方向に関する事項

(1) 学校はいじめ防止に向けた方向性・目標

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものです。

したがって、本校では、すべての児童がいじめを行わず、ほかの児童に対して行われるいじめを認識しながら放置することが無いよう、いじめが心身に及ぼす影響その他のいじめの問題に関する児童の理解を深めることを旨として、いじめの防止等のための対策を行います。

また、家庭や地域、関係機関との連携を大事にし、児童が多くの人々と関わり、多くの目で見守られるよう学校を中心としたコミュニティ作りに努めます。

(2) いじめの定義・いじめの理解

いじめは、いじめ防止対策推進法第2条第1項で定めたとおり、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含みます。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

また、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童の立場に立つことが必要です。いじめには、多様な態様があることから、法の対象となるいじめに当たるか否かを判断するに当たっては、「心身の苦痛を感じているもの」との要件を限定して解釈することのないよう努めることが必要です。

いじめは、単に子どもたちだけの問題ではなく、パワーハラスメントやセクシュアルハラスメント、他人の弱みを笑いものにしたり、異質な他者を差別したりといった大人の振る舞いを反映した社会問題であるという指摘があります。

近年のいじめは、従来に比べ特に陰湿となっていること、一方で、遊び半分のものも多く見られることなども指摘されており、問題が顕在化しにくく、その分、事態が深刻化しやすいとも言われています。その背景には、子どもたち同士の複雑な人間関係や心の問題も存在しており、以下の視点を持って問題に向き合うことが必要となります。

- いじめは、いじめを受けた児童の尊厳を損なう、絶対に許されない行為である
- いじめは、どの子どもにも、どの学校でも、起こり得る
- いじめは、家庭環境や対人関係など、様々な背景から、様々な場面で起こり得る
- いじめは、「被害者」や「加害者」だけでなく、「観衆」や「傍観者」といわれる周囲の子どもにも注意を払う必要がある

(3) いじめの防止等に関する基本的な考え方

いじめ問題に取り組むにあたっては、「いじめ問題」にはどのような特徴があるかを十分に認識し、日々「未然防止」と「早期発見」に努めるとともに、いじめを認知した場合は、「早期対応」に適切に取り組むことが必要です。

また、いじめ問題には、学校や家庭の問題としてだけではなく、全ての大人たちの問題として取り組まなければなりません。常に地域や家庭、関係機関と一丸となって相互に協力する関係づくりを進めることも大切です。

第2 いじめの防止等のための対策の内容に関する事項

(1) いじめの防止

○未然防止のための取り組み

- ・児童の豊かな情操と道徳心を培い、心の通うコミュニケーション能力の素地を養うため、すべての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動等の充実を図ります。
- ・児童が自主的に行ういじめ防止に資する児童活動に対する支援を行います。

○教職員の資質能力向上を図る取り組み

- ・いじめは決して許されないという共通認識に立ち、全職員がいじめの態様や特質等について校内研修や職員会議を通して共通理解を図り、組織的に対応します。
- ・わかる授業づくりを進め、すべての児童が参加・活躍できる授業の工夫を行います。

(2) 早期発見

○いじめの早期発見のための取り組み

- ・月に1回程度の職員の情報共有の場として、「児童指導・いじめ防止対策委員会」を開きます。また、毎週の職員打合せにおいても情報共有の場を持ちます。
- ・気になる変化が見られた、遊びやふざけのようにも見えるものの気になる行為があった等の場合、職員がいつでも共有できるように、その都度記録し、「児童指導・いじめ防止対策委員会」でその後の対応を検討します。
- ・普段から子どもの生活を把握するための定期的なアンケートや個人面談を行います。
- ・民生委員等の地域の組織と連携し、情報交換の場を設けます。

(3) いじめに対する措置

○いじめの発見・通報を受けた時の対応

- ・いじめを見た、またはその疑いがある行為を見た場合は、すぐにいじめをやめさせます。
- ・いじめに係る相談を受けた場合は、すみやかに事実の有無の確認をします。

○所轄警察署との連携

- ・犯罪行為として取り扱われるべきいじめについては、市教育委員会及び所轄警察署等と連携して対処します。

○いじめられた児童又はその保護者への支援

- ・いじめの事実が確認された場合は、いじめをやめさせ、その再発を防止するため、いじめを受けた児童・保護者に対する支援といじめられた児童の安全を確保します。
- ・必要に応じていじめた児童を適切に指導し、いじめられた児童が落ち着いて学校生活を送ることができる環境の確保を図ります。

○いじめた児童への指導又はその保護者への助言

- ・いじめた児童にいじめをやめさせ、その再発を防止する措置をとります。
- ・迅速に保護者に連絡し、事実に対する理解や納得を得た上、学校と保護者が連携して以後の対応を適切に行えるように協力を求めるとともに継続的な助言を行います。

○いじめが起きた集団への働きかけ

- ・いじめを見ていた児童等にも自分の問題として捉えさせ、誰かに知らせる勇気を持つよう指導します。
- ・はやしたてたり、同調したりしている児童に対しては、それらの行為がいじめに加担する行為であることを理解させるよう指導します。

○インターネット上のいじめへの対応

- ・発信された情報が急速に広がってしまうこと、発信者の匿名性、その他のインター

ネットを通じて発信される情報の特性をふまえて、インターネットを通じて行われるいじめを防止し、児童及び保護者が効果的に対処できるように、情報モラル研修会等必要な啓発活動を行います。

- いじめ発見から対応にいたるフロー図
別紙①

(4) 「学校におけるいじめの防止等の対策のための組織」の設置

○組織の役割

「児童指導・いじめ防止対策委員会」の設置

いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処等に関する措置を実効的に行うため、「児童指導・いじめ防止対策委員会」を設置し、月に1回程度開催します。

いじめと疑われる相談・通報があった場合には、会議を緊急開催します。

○構成員

校長・教頭・教務・児童指導担当・学年学級担任・養護教諭・教育相談コーディネーター・SC・SSW等

○組織と教育相談体制

- ・いじめ防止等の取組内容の検討、基本方針・年間計画作成・実行・検証・修正
- ・いじめに関する相談・通報への対応

○組織と児童指導体制

- ・いじめの判断と情報収集
- ・いじめ事案への対応検討・決定
- ・いじめ事案の報告

(5) 重大事態への対処

○重大事態の発生と調査

① 重大事態の意味

ア いじめを受けていた児童の生命、心身または財産に重大な被害が生じた場合

イ いじめを受けていた児童が、そのため相当の期間欠席を余儀なくされている疑いがある場合（年間30日を目安とする。ただし、一定期間連続して欠席している場合は、上記目安にかかわらず重大事態として対応する。）

学校は、直ちに重大事態と判断し、事実関係を明確にするための調査に着手します。

ウ 児童やその保護者から、いじめられて重大事態に至ったという申し立てがあったときは、その時点で学校が「いじめの結果ではない」あるいは「重大事態とはいえない」と考えたとしても、重大事態が発生したものと見なして調査等に当たります。

② 重大事態の報告

学校は、重大事態と思われる案件が発生した場合にはただちに教育委員会に報告します。

報告を受けた教育委員会は重大事態の発生を市長に報告します。

③ 調査の主旨

- ア 発生した重大事態のいじめ事案に関する調査
- イ 市教育委員会への調査結果の報告

④調査の主体

ア 学校が調査主体となる場合

学校が行う重大事態の調査は、いじめ防止対策推進法第 22 条の規定に基づき学校に常設する「児童指導・いじめ防止対策委員会」が主体となって実施します。

常設の組織の中に、専門的知識及び経験を有し、当該いじめ事案の関係者と直接の人間関係又は特別の利害関係を有しない第三者が含まれていない場合は、調査に当たり、当該事案の性質に応じて、外部から必要な人材の参加を求め、調査の公平性・中立性を確保するよう努めることとします。

イ 教育委員会が調査主体となる場合

学校で発生した重大事態について、次のいずれかに該当するときには、教育委員会において調査を実施します。

- ・ 学校主体の調査では、重大事態への対処等に十分な結果を得られないと当該学校を設置する教育委員会が判断した場合
- ・ 学校の教育活動に支障が生じるおそれがある場合

⑤調査を行うための組織について

いじめにより、児童の生命・心身又は財産に重大な被害が生じた場合や、相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている等の疑いがある場合は、市教育委員会を通じて市長に報告し、市教育委員会と協議の上、「緊急いじめ対策委員会」を設置します。

ア 役割

- ・ 発生した重大事態のいじめ事案に関する調査
- ・ 調査によって明らかになった事実関係について、いじめを受けた児童やその保護者に対して、適時・適切な方法での提供・説明
- ・ 教育委員会への調査結果報告
- ・ 調査結果の説明について、いじめを受けた児童又はその保護者が希望する場合は、いじめを受けた児童又は保護者の所見をまとめた文書を添えて、調査結果の報告を教育委員会に提出

イ 構成員

「いじめ防止対策委員会」を母体とし、公平性・中立性を確保するように努める。

必要に応じて適切な専門的知識及び経験を有する第三者の参加を図る。教育委員会の指導・助言のもとに、メンバーを決定します。

⑥事実関係を明確にするための調査の実施

重大事態の調査は、委員会又は学校が行うこととされていますが、調査の実施主体については、上記の考え方により、重大事態の発生の報告を受けた教育委員会が判断します。

⑦重大事態に係るその他留意事項

学校で発生した重大事態について、市教育委員会が自ら主体となって調査をして

も十分な結果を得られないと判断した場合、県教育委員会に協力の要請を行います。

○調査結果の提供及び報告

① いじめを受けた児童及びその保護者に対する情報を適切に提供する責任

調査によって明らかになった事実関係について、いじめを受けた児童やその保護者に対して、適時・適切な方法での提供・説明をします。

② 教育委員会に調査結果の報告

ア 学校で発生したいじめの重大事態について、学校が実施した調査結果は教育委員会を通じて市長に報告します。

○重大事態への対応フロー図

別紙②

(6) いじめ防止のための年間計画（未然防止、早期発見のための取り組みの年間計画をまとめたもの。未然防止、早期発見それぞれに作成することも可能）

別紙③

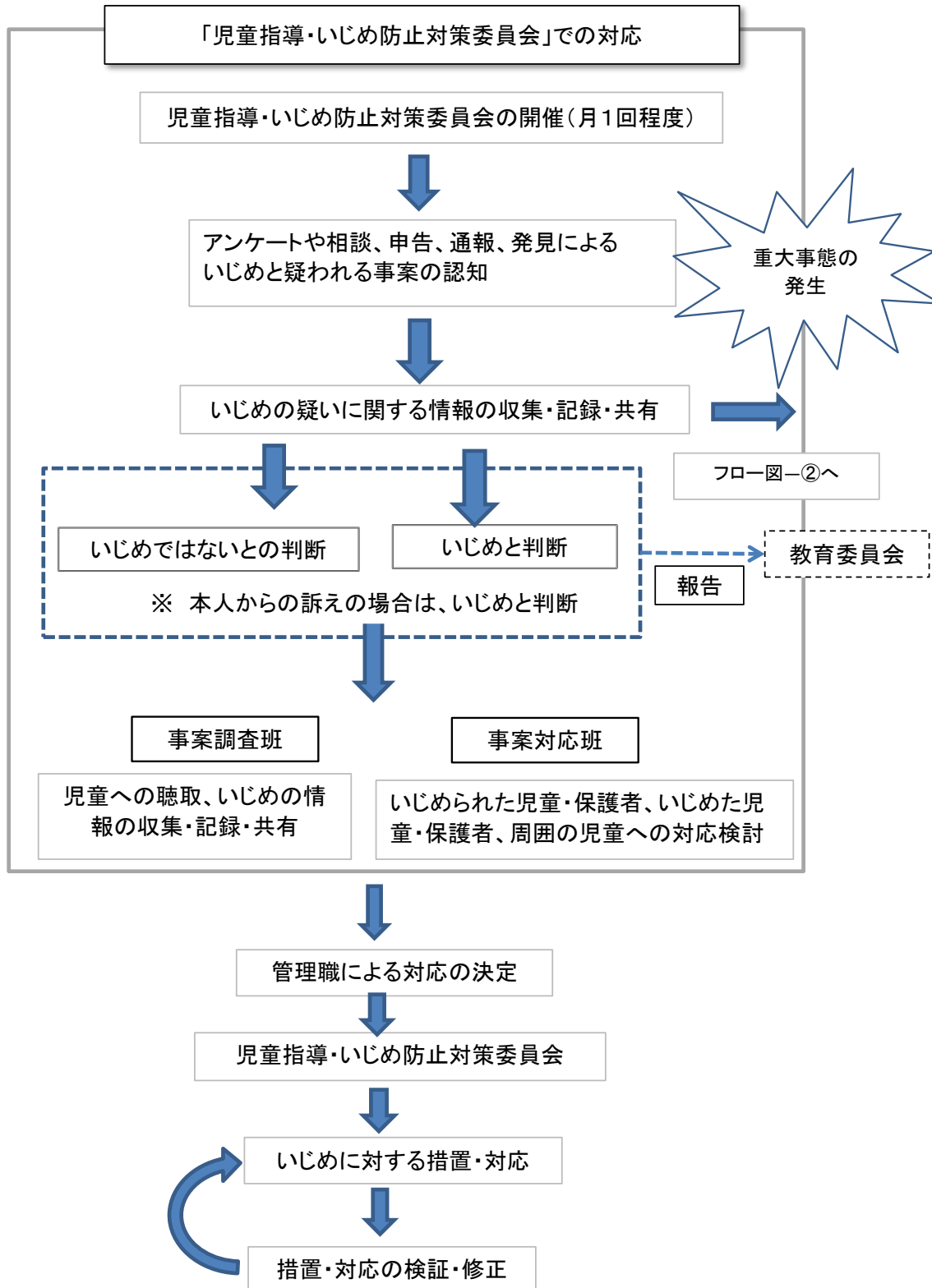
(7) その他留意事項

○児童指導・いじめ防止対策委員会は、学校基本方針の見直しや取り組み状況のチェック、いじめの対処がうまくいかなかったケースの検証、必要に応じた計画の見直し等、PDCAサイクルを意識して定期的に検証を行う。

○秦野市教育委員会教育指導課、秦野警察署生活安全課、秦野市こども家庭支援課こども若者相談担当、平塚児童相談所、地域民生委員等、関係組織との連携については必要に応じ行うものとする。

○ いじめ事案への対応フロー図-①

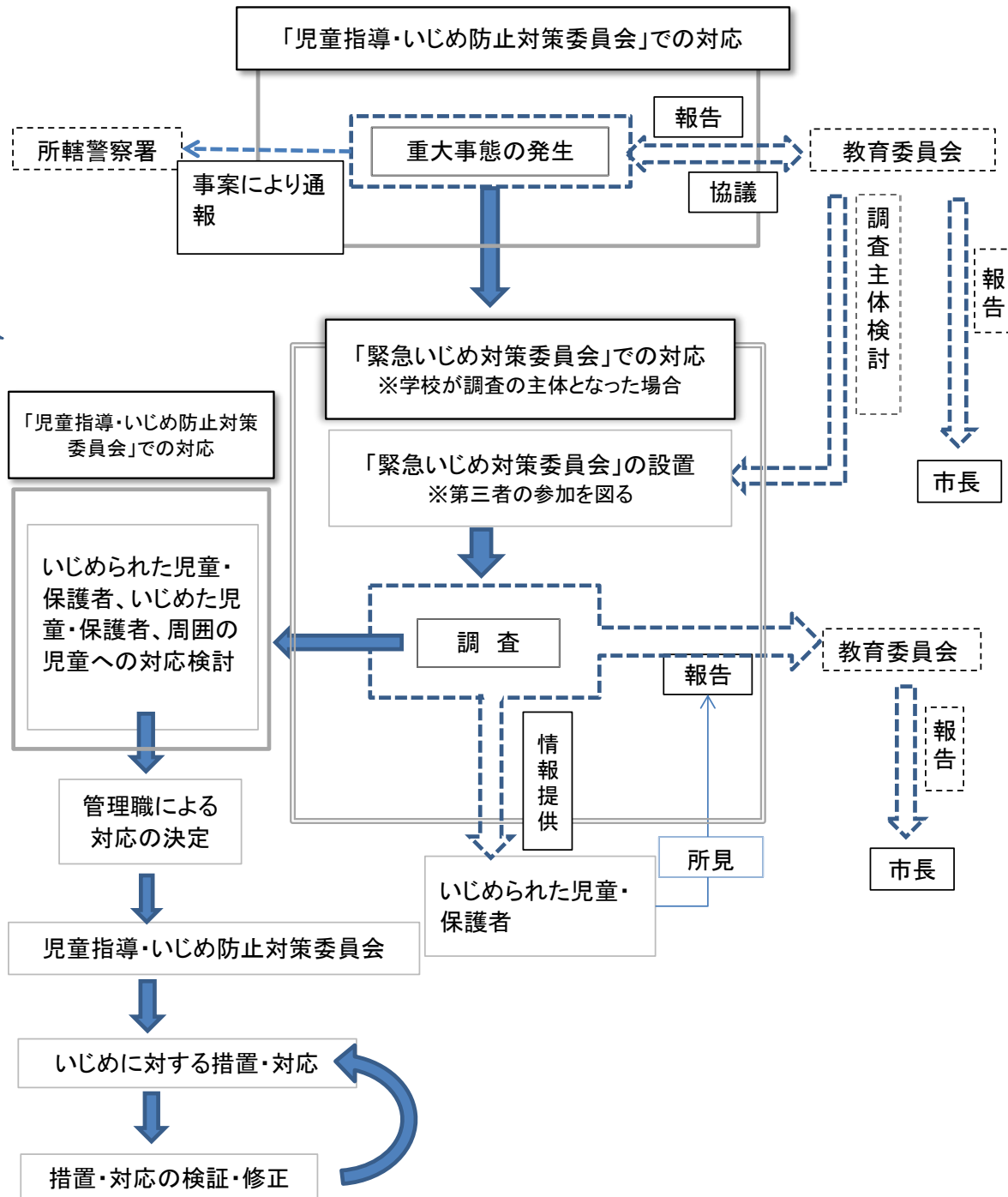
広畑小学校



※ いじめ事案の内容によって学校が必要と認めたときは、所轄警察署に相談・通報し連携する

○ いじめ事案への対応フロー図－②

広畑小学校



- ※ 重大事態の調査主体が教育委員会の場合は、教育委員会へ資料等の提出など調査に協力する
- ※ 調査によって明らかになった事実関係については、いじめられた児童・保護者に対して、適時・適切な方法で提供・説明を行う

令和6年度秦野市立広畑小学校 いじめ防止指導等年間計画

月	学校行事 各種取組み	未然防止の取組み				早期発見の取組み	早期対応の取組み	P D C A サイクル	備考 (担当グループ)
		行事	授業	学級活動 (学年活動)	児童会活動				
4	入学式・始業式								学校長・学級担任
	担任との顔合わせ会 (教育相談含む)								学年・学級担任
	児童指導・いじめ防止対策委員会					気になる児童の情報収集	情報収集にもとづく対応	今年度計画と基本方針、学校 目標・教育目標への反映	全教職員
	秦野子ども未来づくり会議 選出6年2名				・スローガン作成・発表・掲 示 ・児童の主体的な関わり				広友会担当・学年学級
	地域訪問								学年・学級担任
5	児童指導・いじめ防止対策委員会					気になる児童の情報収集	情報収集にもとづく対応	いじめの状況・報告内容の確 認・対応の検証、見直し	全教職員
	教育相談日					家庭での状況確認 保護者の 思いや願いを聞く	情報収集にもとづく対応		学年・学級担任
	野外宿泊学習 (5年)			・校外での過ごし方の約束 集団の中での好ましい人間 関係の育成 ・宿泊学習に向けて(話し 合い・当日の活動) ・クラスの中での役割分担 ・集団の中での好ましい人間 関係の育成					学級担任
	遠足 (1年～4年)			・校外での過ごし方の約束 集団の中での好ましい人間 関係の育成					学年・学級担任
6	学習参観 教育相談日	児童の生活・学習の様子を知 る				家庭での状況確認 保護者の 思いや願いを聞く	情報収集にもとづく対応		学年・学級担任
	児童指導・いじめ防止対策委員会					気になる児童の情報収集	情報収集にもとづく対応	いじめの状況・報告内容の確 認・対応の検証、見直し	全教職員
7	生活アンケートの実施					生活アンケートの実施	アンケート結果に基づく対応		全教職員
	児童指導・いじめ防止対策委員会					気になる児童の情報収集	情報収集にもとづく対応	いじめの状況・報告内容の確 認・対応の検証、見直し	全教職員
	終業式								学校長・学級担任
	個々面談					家庭での状況確認 保護者の 思いや願いを聞く	情報収集にもとづく対応		学年・学級担任

令和6年度秦野市立広畑小学校 いじめ防止指導等年間計画

月	学校行事 各種取組み	未然防止の取組み				早期発見の取組み	早期対応の取組み	P D C A サイクル	備考 (担当グループ)
		行事	授業	学級活動 (学年活動)	児童会活動				
3 学 期	始業式								学校長・学級担任
	スキー教室 (5, 6年)	集団の中での好ましい人間関係の育成		スキー・スケート教室に向けて(話し合い・当日の活動)・クラスの中での役割分担・集団の中での好ましい人間関係の育成					5, 6年担任
	にこにこなかよし会 1年			クラス内での役割分担					ひろはたこども園年長 なでしこ第2保育園年長
	児童指導・いじめ防止対策委員会					気になる児童の情報収集	情報収集にもとづく対応	いじめの状況・報告内容の確認・対応の検証、見直し	全教職員
	教育相談日					家庭での状況確認 保護者の思いや願いを聞く	情報収集にもとづく対応		学年・学級担任
	児童指導・いじめ防止対策委員会					気になる児童の情報収集	情報収集にもとづく対応	・今年度のいじめの状況 ・報告内容の確認・対応の検証、見直し	全教職員
	学習参観日 教育相談日	児童の生活・学習の様子を知る				家庭での状況確認 保護者の思いや願いを聞く	情報収集にもとづく対応		学年・学級担任
	6年生今までありがとうの会	最上級生への感謝と卒業へのお祝いの気持ちを育成		クラス内での役割分担					学年・学級担任
	生活アンケートの実施					生活アンケートの実施	アンケート結果に基づく対応		全教職員
	卒業式	集団の中での好ましい人間関係の育成							全教職員
	修了式 離任式	1年間の自分の成長や仲間との絆を確認する お世話になった先生方への感謝の気持ちを育成							学校長・学級担任
	その他	朝会の充実 ・毎月、朝会で校長より講和、各担当より生活目標についての話 体験学習の充実 ・体験学習を取り入れた校外学習の設定 ・交流の実施 (小・中学校・特別支援学校、福祉施設、地域住民等) ・学校いじめ防止基本方針のHPへの掲載	授業改善の取組み (わかる授業づくり)	クラスを中心とした集団づくり	相談しやすい雰囲気づくり 保護者への啓発	事案認知時の速やかな対応			
		・それぞれの授業における取組み (道徳教育との関わり、キャリア教育、わかる授業、いのちの授業の展開等) ・授業研究の設定	・クラス作り ・コミュニケーションスキルの育成 いじめ防止の啓発授業 ・いじめ防止に向けた取組み等)	・児童指導委員会、いじめ防止対策委員会での情報の整理・共有 ・SCやSSWとの情報交換 ・学年会・職員会議等での情報共有 ・相談窓口の周知 ・保護者への学校基本方針の周知 ・異学年集団との交流 (年5回の昼休みを通じた「わくわくふれあいタイム」の交流) ・交換授業 (職員全体で児童を育てる)	・いじめと判断された事案への対応検討、それに応じた速やかな対応				